



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和3年6月22日 NO.3

芝道遺跡「発掘の様子」



指導観 一考察

学校教育課 課長補佐 関 拓也

朝日新聞 2021年2月19日付記事「大人が黙るサッカー大会密着して見えた小学生の成長」の中で、あるサッカー大会を取り上げていました。この大会のルールについて、以下に抜粋します。

- ・メンバー決定、戦術、ウォーミングアップなど試合に関わる全てのことを子どもたちに委ねる。
- ・試合の間、子どもがいるエリアに大人は入れない。
- ・行き帰りの道中も、大人は「言いたい一言」を我慢する。

記事は、子どもに対して大人（指導者、保護者とも）が、ある特定の見方や指導法に固執する傾向を示し、子どもが考えながら成長する過程を紹介しています。

私事ですが、サッカー部主顧問の頃、「子どもの対話の重要性」に気づかされました。当時の自分は「たとえ競技経験が乏しくても、指導者ならば何か言わなくてはいけない」と感じていました。しかし、生徒の感覚は違います。例えば、ハーフタイムでは、選手同士の貴重な意見交換の時間となるため、時には「先生黙ってください」という声も出ました。自分自身の経験を基にした「教え聞かせる指導」「一つの戦略

や技術を浸透させる指導」が、ミスマッチする事を学びました。

今「クラス会議」という概念が大きく注目されています。「コーチング理論」に関する書籍も、書店では数多く見られます。「特定の価値観によって物事が決まり、実行される」社会から、「合意形成、意思決定のプロセスを重視する」社会へと、大きく変化し続けています。この変化が、教育の世界へ大きく影響を及ぼしていることは、周知の通りです。教室での日常、清掃班、委員会、係活動、部活動、各教科の授業等において、「教えること」と「対話を通して考え決断し実行させること」のバランスを常に考えることが、私たちに求められていると思います。

元サッカー日本代表イビチャ・オシム氏は、数学教師という側面を持ちます。彼は「選手が自発的に意見を言い、動き出すこと」に、勝利以上の喜びを見出しています。「子ども同士、または子どもと教師」が、「本質的な問い」をもち、「深く考え」、「安心して実行できる」ための「対話の場面や仕組み」が複数存在する。そんな学校でありたいものです。

巻頭写真に寄せて ー発掘現場に感激するー



◇私事だが学生の頃、発掘に関わる仕事がしたいと思った。測量学等を学び測量士補免許を取得した。その資格を生かした会社に就職をしたがやめてしまい、数年の臨時教員を経て小学校教員に採用となった。子どもたちとの充実した学校生活の中で、『発掘の仕事』は、私から消えていたのだが…。

◇6月1日、師がく訪問で名木野小学校へ行く途中、嶺崎橋を渡り総合体育館の信号を右折しようとする時、前方で発掘をやっているではないか。「発掘現場を見てみたい。」のスイッチが入り、見学をさせて頂いた。ここの正式名称は芝道遺跡。道路補修工事に伴った歩道部分のみの発掘をやっていた。専門の道具で掘っていると思ったら、土器等発掘物を傷めないよう、花壇用スコップやカレー用のスプーンで丁寧に掘っていた。

良いものを見ることができ、名木野小学校の訪問も楽しいものとなった。

◇さて、6年の社会科学習は、これまで歴史学習を先にやり、政治学習を後にやっていたが、昨年度から始まった学習指導要領で、政治学習を先にやり、終了後に歴史学習を行うようになった。6月に入り、歴史学習の開始にあたって伝承館に学習に来る学校がいくつかある。見附小も見学に来て熱心に学んでいた。その後、見附小の6年生は、学年遠足で「耳取遺跡」を訪ね、伝承館の学びの上に、田中真理学芸員から説明を受け、現地で学習を行った。(写真上は耳取遺跡の説明を中央で行う。下は拾った土器の説明をする田中学芸員)



子どもたちは、現地で「縄文人の暮らし」を思い描くことができ、最高の学びになったに違いない。専門家からの指導は生涯の財産になる。伝承館をもっと活用して頂きたいものだ。

◇現在(5/26～8/29)、伝承館では、企画展『耳取遺跡周辺の遺跡ー土井荘推定地としての上田(じょうだ)遺跡を考えるー』をやっている。平安時代、貴族・寺院などの土地の私有化がすすみ、田畑が開墾をされた。見附には奈良東大寺が領有していた「土井荘」という荘園があったと考えられている。須恵器の壺や墨で文字が書かれた土器が展示され、見応えのある企画展になっている。ぜひ多くの人に見て頂きたい。ところで、巻頭写真の芝道遺跡は鎌倉時代のものである。耳取遺跡周辺には、時代が様々な遺跡が多数ある。現在は水田のところも、当時は刈谷田川の自然堤防上で、人々がそこに住んでいたと推測ができる。企画展で過去を想像しながら、悠久のロマンを感じて欲しいものだ。

コラム・・・「子どもと一緒に」が、良い授業づくりの第一歩である

◇師がくで訪れるN小は、2階相談室が授業者との学びの場である。昼休みに相談室の窓からグラウンドを見ると、6年担任のH先生が学級の子どもたちとドッジボールをしている。若いとはいえ女性のH先生に、男子が次々と狙い、強いボールを投げる。汗びっしょりで応戦するH先生の頑張りに頭が下がる。さて、教師の指導力向上は、教材研究の上に発問や課題、学習形態の工夫や板書など教育技術を高めることであろうが、その前提に、確かな子どもの見とりがなければならない。言葉を変えて言えば、確かな子ども理解がなければならない。この子ども理解のためには、H先生のように子どもと一緒に過ごすことが、何よりも大切である。担任に心寄せる子どもたちであれば、授業は必ずうまくいく。一緒に清掃をする。一緒に掲示物を貼る。一緒に読書をする等…子どもと共に過ごして欲しい。良い授業づくりの第一歩は、「子どもと一緒に」である。(こ)

4時から夢塾 —「個別最適な学びにおける ICT の活用」—

第2回「4時から夢塾」を5月31日(月)、県立教育センター指導主事の小野 浩 先生から『理科教育の充実に向けて』の演題で「学習指導要領改訂の方向性、クロームブックをどのように授業に取り入れるか等 ICT の活用の方法。指導と評価の一体化などについてのご指導を頂きました。内容を簡単に紹介します。小野 浩 先生



1 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成のために、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の3つの視点が大切になる。「どのように学ぶか」という視点では、新潟県の学校教育の重点でも示しているように、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向け授業改善を目指し、その中で個別最適な学びを取り入れていくことが必要である。

2 個別最適な学びにおける ICT の活用

ICT を活用し個別最適な学びを推進するには、「指導の個別化」として、子どもたちが自ら調べたり、動画やアプリを活用したりすることで、一人一人が自分にあった学習方法を考えていくことが必要である。また、「学習の個別化」として集まったデータの処理やレポートの作成、情報の発信のために ICT を活用して学習に取り組んでいくことで、学びの質を高め、深い学びの実現へとつながっていく。具体例として、『Jamboard』を活用した動物の分類に関する学習や、チョウや人の体の構造について、子どもが ICT を操作して、思考を深めていく学習について紹介をして頂いた。



3 主体的に学習に取り組む態度の評価について

学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整する姿を育てていくために、「指導と評価の一体化」が求められる。「主体的に学習に取り組む態度」については、内容のまとまりごとの評価基準を作成して、評価していくことが大切である。具体的な例として、天体の日周運動での学習の前後における変容をふまえた生徒の記述例を基に、評価の基準を示して頂いた。

4 最後に

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業改善を進め、学習指導要領の確実な実施が求められている。



- 〈参加者の声〉**・理科以外にも生かせる内容が多かった。振り返り例を活用したい。
- ・指導がメインではなく、生徒の学習をサポートする授業作りをしなければいけない。
 - ・個別最適な学びや自己調整、主体的に学習に取り組む態度の評価等、学びが多かった。
 - ・クロームブックをどう授業に取り入れ、有効的に導入していく大切さが分かった。
 - ・ICT の有効な活用ができるように、自分も考え、研修を積み重ねる意欲が高まった。

6月

科学教育部



《今月の1枚》

市民の森からのドローンによる景色

【研修内容紹介】

「植物観察会」 5月25日（火）

今年度の植物観察会は市民の森を会場に行いました。市民の森を管理している「森の仲間」の方の尽力により、見附市と協力して木工加工できる施設など建てられています。児童・生徒が活動や体験するには非常に良い場所になっています。ぜひご活用ください。

研修では講師である上越教育大学 五百川裕 教授から市民の森の植物の特徴や、面白さを紹介していただきました。研修会ではドローンを活用して、上空からの植物観察も行いました。さまざまな体験ができた充実した研修となりました。



飛行中のドローン

「雨水の流れ」 6月1日（火）

校庭で雨水のたまる場所の観察のやり方、土の粒の大きさによる水の流れ方の違いを比べる実験などについて研修しました。天気により、観察できるかが左右されます。モデル実験などで、できるようにしておくことも大切です。



100円ショップのカップを活用して土の粒の大きさによる水の流れの違いを比べました

要請訪問「水生生物の観察」 見附第二小学校



刈谷田川で見附第二小学校の児童と、水生生物の観察を行いました。見附市内では、他の場所では刈谷田川も護岸工事されており水生生物の観察をすることが難しいですが、杉沢橋のそばで河原に降りて、水生生物の観察を行うことができます。この場所ではあまり流れも速くなく、観察には非常に良い場所です。「カゲロウ」の幼虫などを見つけることができました。ぜひ観察に活用ください。

科学の公園

一人一台端末の活用が見附市でもスタートしました！

見附市でも各学校で一人一台端末の活用がスタートしています。児童・生徒の学習の幅が広がることは間違いありません。そのためには、少しずつで良いので教職員ができることから、活用してみることが大切です。理科では、どのような活用可能性があるか紹介します。

チャレンジ①—自然の事物・現象を写真や動画で撮影してみる。

一人一台端末の有効な点は記録を残せます。植物や実験の様子を撮影することで、繰り返し見直すことができるようになります。実験などでは一回しか見ることができなかったものが、何度か見ることで、気づかなかったことにも気づくことができるようになります。



チャレンジ②—学習内容に活かせるようなアプリを活用してみる。

今は学習に活用できそうな様々なアプリが開発されています。アプリを使うことでシミュレーションができるものがあったり、調べるのに便利になったりします。ここは教えるのが難しそうだなと思ったら、アプリを探してみるといいかもしれません。

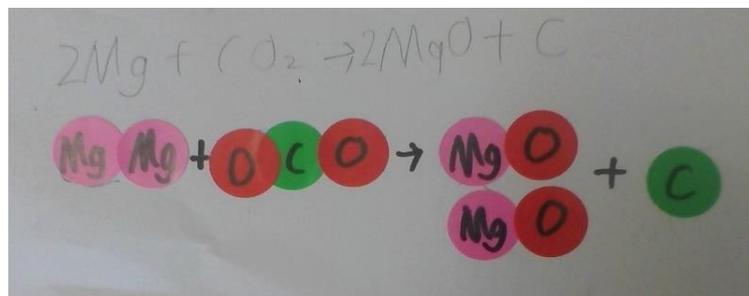


運動を分析するアプリ「モーショショット」

チャレンジ③—Classroomで共有したり、評価に生かしたりする。

課題をClassroomで配信できます。「google フォーム」を使ったり、他のソフトを使ったりもできますが、全員の意見を集めるのに簡単なのはノートやワークシートを撮影して提出させることです。

提出したものに一つ一つ評価をして返却することができます。



カメラで撮影した画像ファイルを選んで提出すれば完了です！

チャレンジ④ー撮影した画像を活用してみる。

撮影した画像を活用して、次の学習に生かすことができます。例えば、校庭の雨水マップや植物マップを作成することができます。



Classroomの「授業」⇒課題の作成で配信できます。生徒に入力させたいファイル等をコピーして配付すると便利です。

桜、カミキリムシ、シオカラトンボ、ヒメジヨオンを見つけた



学校の航空写真を貼り付けたファイルを配付しました。植物などの発見場所に写真をフラットしました。

苔

陰でるところで発見。湿っていた。この2つの条件があって苔は育つんだなと思いました。桜の木の下にたくさんありました。(影ができて涼しくなっている。)苔にはたくさんの種類があることがわかった。(この苔以外にもある。)



桜の葉と実

よく見ると実がついています。熟しているもの、ないものがあります。味は洗いそうです。葉は網状脈です。青く茂っています。実は赤かったり、緑だったりします。



桜の下で見つけました。体は小さくて4cmくらい。色は茶色です。頭部、腹部、胸部で分かれていたので昆虫類だと思いましたが、名称は分かりません。ちなみに葉っぱについていました。



シオカラトンボ

山の方で発見。トンボなので昆虫類です。大きさは5cmくらいです。逃げられないようにばねがないように、てーっと近づいて撮りました。

名称は多分あっています。この後逃げられました。

学習したことを基にまとめる活動をしました。植物や動物の特徴を基に、分類を考えました。